

令和6年度『医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業
地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）』中間評価結果報告書

研究課題名	ピロリ菌感染症関連死撲滅に向けた中核拠点形成事業
機関名	大分大学
研究開発代表者名	山岡 吉生
採択年度	令和3年

- ヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）感染症は、胃癌を引き起こす感染症であるが、ブータンをはじめ開発途上国では対策がなされていない。ブータンはピロリ菌感染率が7割を超え、胃癌死亡率世界3位である。本研究課題では、ブータンにおけるピロリ菌感染症の蔓延の抑制と胃癌撲滅を目指し、1)迅速ピロリ菌診断法の開発、2)迅速薬剤感受性試験技術の移転、3)内視鏡教育プログラムと微生物学を両輪としたピロリ菌診断治療ガイドラインの作成、4)ブータン保健省と連携したピロリ菌/胃癌の全国調査および除菌の実施、を目指している。
- ブータンにおけるピロリ菌感染症対策と、内視鏡検査の普及と人材育成等による胃癌予防のための早期発見の取り組み等が進捗し、当初の計画に沿った着実な達成が認められる。
- 研究成果が着実に得られ、ブータンの医療の進展に貢献している。ピロリ菌迅速診断法については、ブータンにおいて迅速便中抗原検査イムノクロマトキットの開発が進んでいる。内視鏡教育プログラムについては、ブータン人医師の育成が進んでいる。迅速薬剤感受性試験についても、薬剤感受性に関する情報収集が進んでおり評価される。科学技術に関するコミュニケーション活動も活発に実施されている。
- 多数の日本側専門家がブータンに長期滞在し、技術移転や研究推進に携わっていることは評価できる。ブータン研究者の日本への招聘や日本人研究者のブータンへの派遣に係る指導等において、研究開発代表者のリーダーシップが発揮されている。
- ブータンの研究機関・研究者の自立性・自主性が生まれつつある。ブータン・日本双方の若手研究者の育成が持続的に実施されることが期待される。
- 今後、市販キットに対する有効性が示された新規検査キットについて、製品化に向けた企業との協働、相手国における体外診断用医薬品としての認証、WHOの事前認証や知的財産権の取得、などが待たれる。また、研究開発期間終了後の機材の維持や消耗品の調達・確保についても検討が必要である。